

SAMPLE

プライベート情報保護のため写真はぼかしてあります。



SAMPLE

PROFILE

須藤 和夫

昭和9年（1934）1月25日生
墨田区本所生まれ

練馬区中江古田小学校卒
練馬区上江古田中学校卒
板橋区成増高校夜間部卒

蓬萊塾養成所入所、役者を志す
多種多様な仕事に就く

博多にある地方演劇集団・無頼座に所属

昭和39年（1964）妻 晶子と知り合い結婚

モリタ文房具入社
版權の仕事始める

昭和40年（1965）長女誕生
昭和43年（1968）次女誕生
昭和46年（1971）長男誕生

1999年（平成11年）妻が須藤医院を開業
モリタ文具を退社、事務長になる

2005年12月10日没



地域にとって本当に惜しい人を亡くしました。
あの笑顔、忘れられません。

茂木 一郎



飄々としながらも、胸の内に固い意思を持たれていた須藤さん。
ご遺志を受け継いで、後に続かねばの思いを抱きます。
ご冥福をお祈り致します。

矢野 大志



高校の先輩である須藤さんとお会いできたのも同窓会の準備に開いた会があったからでした。あれからずっと同窓会開催の為に
ご尽力して下さったご苦勞に感謝致します。

茂木 一郎



飄々としながらも、胸の内に固い意思を持たれていた須藤さん。
ご遺志を受け継いで、後に続かねばの思いを抱きます。
ご冥福をお祈り致します。

矢野 大志



結婚式があった後に上京し泊
まらせてもらった、新婚の笹
塚の8畳一間のアパート、今
でも鮮明に思い出します。
何もなくて、裸電球だけが煌
煌と光っていたっけ。
和夫君は奥様の迷惑も考えず、
いいじゃないかと遅くまで私と
演劇論を交わし楽しみました。
和夫君、また冥土で語らいま
しょう。

吉山 守男



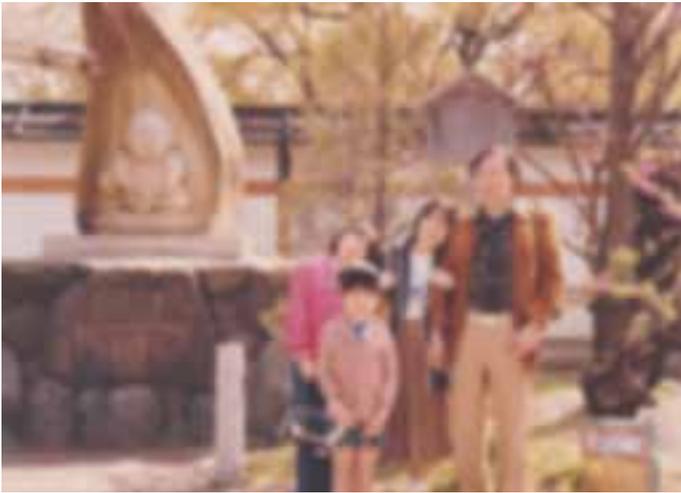
もっともっと色んな話を聞か
せて欲しかったです。
須藤さん、ご冥福をお祈り致
します。

長山光夫



あなたが現れてから、我が社
は瞬く間に変わっていった、
そんな気がしてなりません。
あなたの強い意思が我々を動
かしてくれたんだと、そう感
じています。
まだ熱さの残る晩夏の夜、焼
き鳥をつまみながら、酒を
ぐっと飲んで、「俺たちはまだ
やれるよ」そういったあなたの
笑顔が忘れられません。
ご冥福をお祈り致します。

狩野 紀子



須藤くんは私の心の裡に生き
続けています。
若い人たちがこれからも平和
で安定した暮らしを続けられ
るよう、君との約束を胸に、
君の意思を継いで行こうと思
います。
須藤くん、お疲れさま。

日比野 鶴雄



須藤さんとの出会いは数年
前、山田さんの紹介で旅行を
ご一緒させて頂いてからでし
た。会はずっと続いていたの
ですが、まるで始まりから参
加して頂いていたかのような
存在感のある方でした。
常に輪の中心にいらした須藤
さん。これからあの会の花が
いないかと思うと、寂しくて
なりません。
もっともっと色んなお話をお
聞きしたかったです。

広川 太郎



高校の先輩である須藤さん
とお会いできたのも同窓会の準
備に開いた会があったからで
した。あれからずっと同窓会
開催の為に ご尽力してくだ
さったご苦勞に感謝致します。

宮部 和美



モリタ文具のワンボックスに大きな段ボールを幾つもつめて、営業に走り回っていた頃の和夫さんと私は初めてお会いしました。

確か初夏の頃だったかと思います。

白いハンカチで額を拭きながら、あの独特の語り口で、優しく接してくれた事、今でも思い出します。

品のいいネクタイを付けていて、お洒落だな、と密かに思っておりました。

あれからいつも弟のように接してくれ、色々なところへ連れて行ってくれました。歴史が好きで酒の席ではよく、今後の日本を憂っていました。

僕は和夫さんに会ってから、日本の将来を考えるようになりました。

どうですか？兄貴。兄貴から見て、少しでも僕は礎になれていますか？

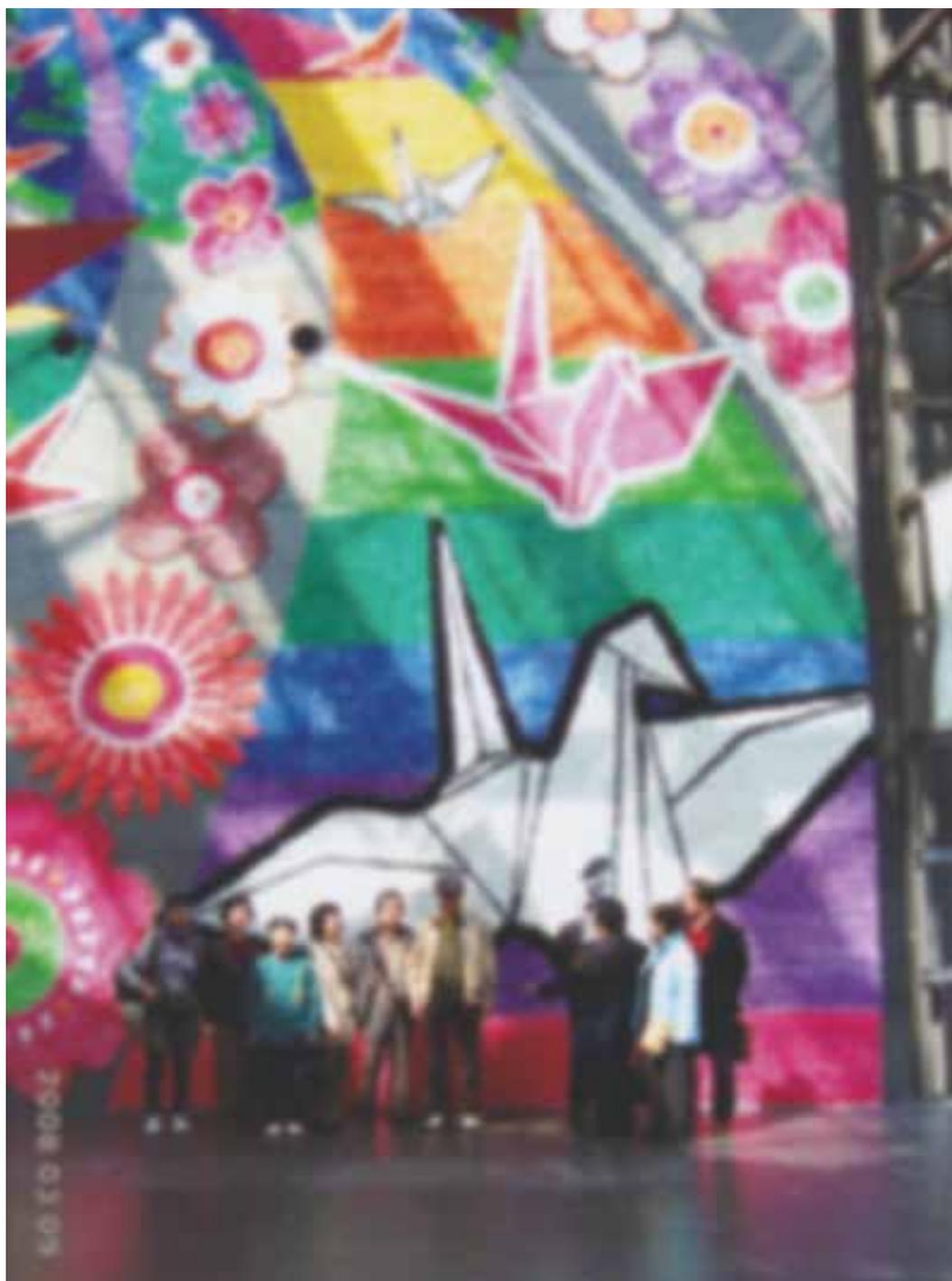
兄貴、お疲れさま。安らかに眠りください。

畑 俊之助



もっともっと色々な話を聞かせて欲しかった。
おじいちゃん、バイバイ。

須藤 美和



須藤くんは私の心の裡に生きています。
若い人たちがこれからも平和で安定した暮らしを続けられるよう、君との約束を胸に、
君の意思を継いで行こうと思います。
須藤くん、お疲れさま。

日比野 鶴雄



結婚式があった後に上京し泊まらせてもらった、新婚の笹塚の8畳一間のアパート、今でも鮮明に思い出します。何もなくて、裸電球だけが煌煌と光っていたっけ。和夫君は奥様の迷惑も考えず、いいじゃないかと遅くまで私と演劇論を交わし楽しみました。和夫君、また冥土で語りましょう。

吉山 守男

須藤さんとの出会いは数年前、山田さんの紹介で旅行をご一緒させて頂いてからでした。会はずっと続いていたのですが、まるで始まりから参加して頂いていたかのような存在感のある方でした。

常に輪の中心にいらした須藤さん。これからあの会の花がないかと思うと、寂しくてなりません。もっともっと色んなお話をお聞きしたかったです。



広川 太郎



高校の先輩である須藤さんとお会いできたのも同窓会の準備に開いた会があったからでした。あれからずっと同窓会開催の為に尽力してくださったご苦勞に感謝致します。

宮部 和美



もっともっと色々な話を聞かせて欲しかったです。
須藤さん、ご冥福をお祈り致します。

長山 光代

あなたが現れてから、我が社は瞬く間に変わっていった、そんな気がしてなりません。
あなたの強い意思が我々を動かしてくれたんだと、そう感じています。
まだ熱さの残る晩夏の夜、焼き鳥をつまみながら、酒をぐっと飲んで、「俺たちはまだやれるよ」そういったあなたの笑顔が忘れられません。
ご冥福をお祈り致します。

狩野 紀子

飄々としながらも、胸の内に固い意思を持たれていた須藤さん。
ご遺志を受け継いで、後に続かねばの思いを抱きます。
ご冥福をお祈り致します。

矢野 大志

須藤さんとの出会いは数年前、山田さんの紹介で旅行をご一緒させて頂いてからでした。
会はずっと続いていたのですが、まるで始まりから参加して頂いていたかのような存在感のある方でした。
常に輪の中心にいらした須藤さん。
これからあの会の花がないかと思うと、寂しくてなりません。
もっともっと色々なお話をお聞きしたかったです。

広川 太郎

須藤くんは私の心の裡に生きています。
若い人たちがこれからも平和で安定した暮らしを続けられるよう、君との約束を胸に、君の意思を継いで行こうと思います。
須藤くん、お疲れさま。

日比野 鶴雄

結婚式があった後に上京し泊まらせてもらった、新婚の笹塚の8畳一間のアパート、今でも鮮明に思い出します。
何もなくて、裸電球だけが煌煌と光っていたっけ。
和夫君は奥様の迷惑も考えず、いいじゃないかと遅くまで私と演劇論を交わし楽しみました。
和夫君、また冥土で語りましょう。

吉山 守男

モリタ文具のワンボックスに大きな段ボールを幾つもつめて、営業に走り回っていた頃の和夫さんと私は初めてお会いしました。
確か初夏の頃だったかと思います。白いハンカチで額を拭きながら、あの独特の語り口で、優しく接してくれた事、今でも思い出します。
品のいいネクタイを付けていて、お酒落だな、と密かに思っていました。
あれからいつも弟のように接してくれ、色々なところへ連れて行ってくれました。歴史が好きで酒の席ではよく、今後の日本を憂っていました。
僕は和夫さんに会ってから、日本の将来を考えるようになりました。
どうですか？兄貴。兄貴から見て、少しでも僕は礎になれていますか？
兄貴、お疲れさま。安らかに眠りください。

畑 俊之助

高校の先輩である須藤さんとお会いできたのも同窓会の準備に開いた会があったからでした。あれからずっと同窓会開催の為にご尽力して下さったご苦労に感謝致します。

宮部 和美

須藤くんは私の心の裡に生きています。
若い人たちがこれからも平和で安定した暮らしを続けられるよう、君との約束を胸に、君の意思を継いで行こうと思います。
須藤くん、お疲れさま。

日比野 鶴雄

地域にとって本当に惜しい人を亡くしました。
あの笑顔、忘れられません。

茂木 一郎

飄々としながらも、胸の内に固い意思を持たれていた須藤さん。
ご遺志を受け継いで、後に続かねばの思いを抱きます。
ご冥福をお祈り致します。

矢野 大志

もっともっと色々な話を聞かせて欲しかったです。
須藤さん、ご冥福をお祈り致します。

長山 光代



須藤 和夫
1934 ~ 2005

メッセージ投稿者一覧

吉村一喜
泰山荘太
古田信夫
佐々木五郎
玉田佳子
木内ひかり
伴山雄一
陶山一夫
河田孝雄
小森龍平
松山研二
益子陽子
轟三郎
加賀美利也
望月俊次
高橋史朗
鈴木満智子
伊藤信太
赤木凜
横山春夫
木南太助
田中満寿夫
落合浩
小暮一太
山田朝夫
中村洋児
高田信太郎
田丸一郎
井上孝三
増田勇
木附裕一郎
広沢理沙
町田太郎
久米正雄
常田丸夫
中山健三郎
吉田要蔵
金山ゆき
佐々木香織
村上博夫

(順不同)

木附裕一郎
広沢理沙
町田太郎
久米正雄
常田丸夫
中山健三郎
吉田要蔵
金山ゆき
佐々木香織
村上博夫
友田真琴
中川大地
園田有里
仲宗根トメ
篠田三市
久原しのぶ
村谷由香
北野三郎
真原達夫
藤田二郎
亀山隆
室田陽一
福田寿三郎
中田洋
稲垣勲夫
稲垣隆子
諸田文
山岸夏生
黒田大紀
白井初雄
玉山裕次郎
鞍川悦治
都筑昌義
手塚孝雄

(順不同)